



ロータリー：変化をもたらす
RI会長 イアン H.S.ライズリ



2017-2018年

Rotary District 2640 Japan
海南東ロータリークラブ
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

会長 中西 秀文 幹事 阪口 洋一 SAA : 前田 克仁

第 1942 回例会

平成 30 年 1 月 22 日 (月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」

3. ゲスト紹介 元海南東RC会員 吉田 昌生 様

4. 出席報告

会員総数 40 名 出席者数 25 名
出席率 62.50 % 前回修正出席率 62.00 %

5. 会長スピーチ

会長 中西 秀文 君

皆さん、こんにちは。今日は本当に寒くて、今、インフルエンザも流行っているようなので、体調には十分注意して下さい。深谷さん、新春家族例会の写真を頂いてありがとうございます。

本日は、お客様として元会員の吉田 昌生 様をお招きしております。大変、御無沙汰しておりますが、熊野古道に関して本当に色々教えて頂きありがとうございました。

「家であれば筍(け)に盛る飯を草枕 旅にしあれば椎の葉に盛る」西暦 658 年、孝徳天皇の子で有力な皇位継承者の一人で陰謀により 19 歳の若さで殺害された「悲劇のプリンス 有間皇子」の辞世の句です。熊野一の絶景を望む峠で護送の兵が休み、有間皇子が小さな椎の葉に盛った飯を前に天を仰ぎその傍らで従者がうなだれている絵図が目に浮かびます。皇子は、護送の途中、この藤白峠で昼食を与えられ、椎の葉に盛られた一握りの飯を見る。死を覚悟した彼が口にする飯。今この瞬間も自分の命を支えているのはこの葉に盛られた一膳の飯と知ったとき、死を前にしてなお生きることの素晴らしさを語ろうとしたのではないのでしょうか。後にあまりにも有間皇子が不憫であるということで「藤白の み坂を越ゆと白たへの わが衣手は濡れにけるかも」(作者不詳)の句碑が建っています。今日は色々といってお話が聞けるとお思いますので、後程卓話よろしくお願ひ致します。



さて、1 月 15 日 (月) 定例理事会の報告をさせていただきます。

- 1) マンダウエ・イースト RC 友好クラブ訪問の件(セブ島) 3/8(木)～3/12(月) 訪問予定
 - 2) 宮崎中央 RC の件
3/21(水), 22(木) 表敬訪問の予定
 - 3) たんぼぼの会の件
 - 4) 子供食堂の件
3)4) につきましては後程、岸社会奉仕委員長より説明があります。
- よろしくお願ひします。

6. 幹事報告

幹事 阪口 洋一 君

○例会時間(食事開始時間) 変更のお知らせ

有田 RC 2018 年 1 月から
食事時間 12:15 (～12:40 頃)
例会開会(点鐘) 12:30
例会次第開始 12:40
閉会点鐘 13:30

○休会のお知らせ

有田 RC 2 月 15 日 (木)

7. 委員会報告

○国際奉仕委員会

委員長 重光 孝義 君

フィリピン・セブ島の国際奉仕活動について、3 月 8 日から 12 日に訪問します。参加者を募集しています。皆様のご参加をお願いします。また、国際大会の参加者募集も行っています。ご参加いただける方はお申し出ください。宜しくお願いします。

○社会奉仕委員会

委員長 岸 友子 君

子ども食堂の支援活動として、寄付を行います。別紙のとおり、海南市では 2 箇所で開催されています。ご一緒に参加いただける方はお申し出ください。

また、従来からの清掃活動につきましても、社会福祉協議会から協力要請があります。みなさんのご協力をお願いします。



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



Rotary

事務所 〒642-0002

海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)

TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail : info@kainaneast-rc.jp

8. 財団 ポールハリスフェロー表彰



小椋 孝一 君、谷脇 良樹 君、岸 友子 君

9. ゲスト卓話 元会員 吉田 昌生 様 日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」と海南

私が海南東ロータリークラブに入会したのは今から23年前、クラブ創立20周年記念事業として、JR 海南駅前に名高浦万葉歌碑を建立することになり、そのお手伝いをさせていただいたのがきっかけでした。



海南市内には12基の万葉歌碑がありますが、それは当時の海のない都人、天皇や貴族にとって紀の海はあこがれの的であり、黒江や名高の浦、藤白が詠まずにはいられなかった景勝の地であったという事の証です。江戸時代になると一般庶民も旅をすることが容易になり、有名人も多く訪れるようになりました。『養生訓』を書いた貝原益軒もその一人です。益軒は60歳の時、旧暦2月10日に京都を出発、河内長野の金剛寺から岸和田を経て、淡輪から加太、和歌の浦を見物、黒江から和歌山、粉河寺に参拝して、高野山から吉野の地を訪れています。吉野では満開の桜を愛で、2月23日に京都へ戻っています。和歌の浦では、「この素晴らしい景色、聞きしにまさりて目を驚かされた。この景色をむさぼり見て海辺に躊躇し去ること能わず、時刻を移した。強いて努めてまた本の道に戻り、玉津島神社から紀三井寺に参り、紀三井寺では、山上から望むと、和歌山城、東照宮、天満宮、玉津島、妹背山と和歌の浦の全てが眼下に見えて、海山の景色は霞が渡り、塩を焼く煙が立ち上って風にたなびき、眼界が広いのであちらこちらと見所が多い。日本三景の内、松島はまだ見ていない。安芸の厳島(宮島)、丹後の天橋立も、もともと美景であるといっても、おそらくはこの和歌の浦の烟景にはおよぶことはできない。私が遊観した諸国の佳境は多いといっても、このような絶景はまだ見たことがない。その上、大国の紀州藩の城下であるので、神社仏閣は美しくりっぱで、洒掃(拭き掃除)もきれいであるので、一入の光景を増している。今日、空は曇りながら終日雨降らずして、心静かにこの勝れたところに遊べること、まことに大へんなしあわせである。」と書いています。

そして、「紀三井寺の東一里に雑賀という所がある。和歌より浦つづきである。和歌より藤白峠が東に見え

る。高山である。和歌より二里あるという。熊野へ行く道である。藤白の坂の半ばから海辺が眼下にあって、絶景であるという。また、金岡の筆捨松といって大木が二株あるという。この辺りに、黒江村、日方村に木椀を多く製造している。紀州椀というのがこれである。京都でもこれを買って塗る。また、王子の社がある。鈴木兄弟の宅地である。その子孫が今に居住しているという。

私は、熊野三山を遊観したいと思うが、仕官の身、往来に日数が多くかかる所であるので心にまかせず誠に残念あまりある。かの所を見た人々が私に語っているのには、日本の佳景、熊野に似た所はない。たとえ、富士は見なくとも、熊野を見ないではすまされないという。

紀三井寺を下り、和歌山の城下の町を通り、これより高野、吉野へ行くと思う」こうして益軒が歩いてきた道が熊野街道です。そして益軒が訪れたこの地が昨年四月に「絶景の宝庫 和歌の浦」として文化庁から「日本遺産」に認定されました。海南市としても今後和歌山県、和歌山市とともに、認定を受けた当地域の歴史的の魅力や特色を通じて、日本の文化、伝統を語る上で不可欠な魅力ある有形、無形の様々な文化財群を総合的に活用し、地域活性化を図ることを目的として、様々な事業が展開されようとしています。そのためにもまず市民の理解と支援が大切だと思います。



10. 閉会点鐘

次回例会

第1943回 平成30年2月5日(月)

18:30~ 海南商工会議所 4F

お誕生 ご結婚記念日 お祝い

新入会員 宇恵 久視 君 の歓迎会



ニコニコ・BOX

山東 剛一 君

吉田先生、今日は卓話よろしくお願ひします

小椋 孝一 君

財団ポールハリスフェローの表彰を受けました。

谷脇 良樹 君

〃

岸 友子 君

〃



1月は 職業奉仕月間です